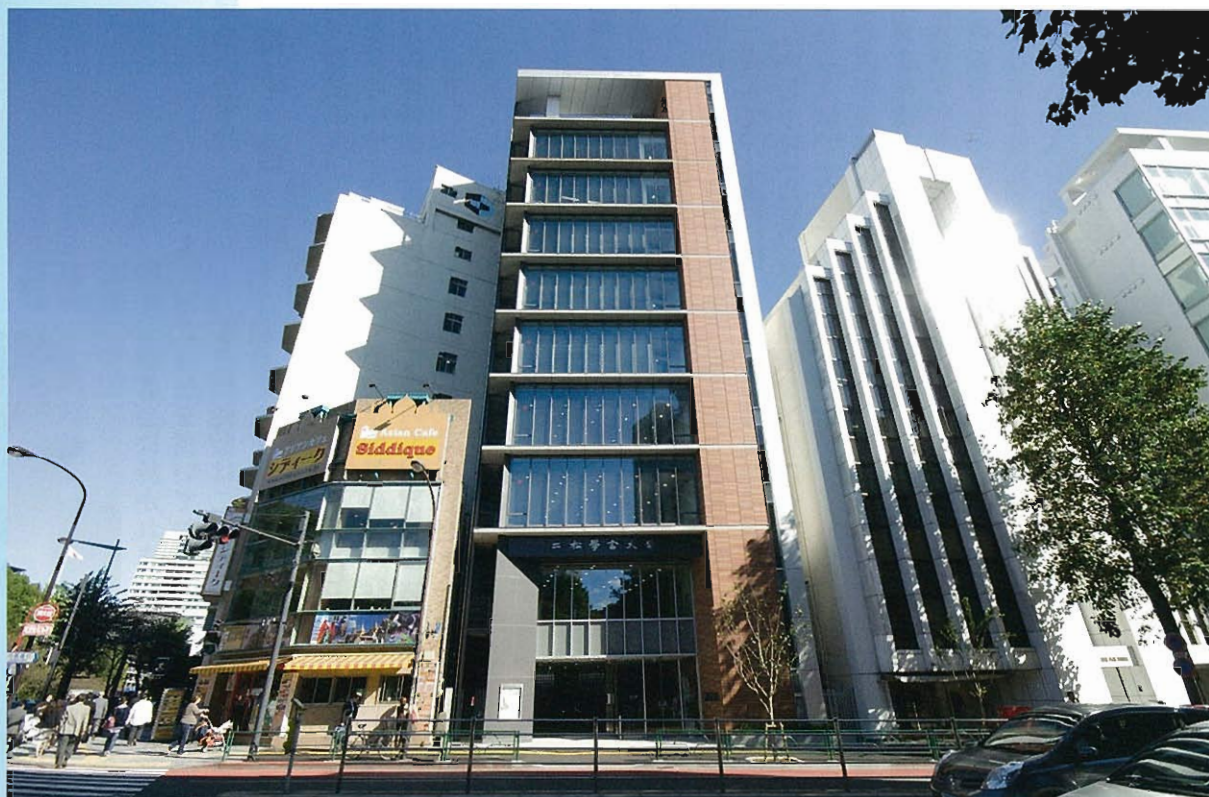


二松學舎 松苓會報



CONTENTS

- P2 二松學舎松苓会長・二松學舎理事長・
二松學舎大学学長ご挨拶
- P3 平成24年度（第17回）松苓会定期総会
- P6 平成23年度松苓会決算
- P7 平成24年度松苓会事業方針並びに計画
- P8 平成24年度事業計画
- P9 平成24年度予算（案）について
- P11 松苓会幹事会・総会懇親会開催
- P12 松苓会の組織と現状
- P13 松苓会各支部総会報告
東京都支部、山形県支部、長野県支部、岩手県支部、
神奈川県支部、千葉県支部
- P16 二松學舎創立135周年記念事業
- P17 第18回教育研究大会
- P18 国際政治経済学部設立20周年記念卒業生交流会 他
- P19 平成23年度課外活動助成費を受賞して
- P20 寄贈図書紹介・編集後記 他

No.47

2012年10月1日

ご挨拶



二松學舎松苓会
会長 神津 賢一郎

今、日本は原発問題、円高、経済不況、更に政界の混乱状況等、先行不透明な世の中です。このような中全国各県松苓会支部長の皆様が二松學舎松苓会総会のためにご出席くださり、一同に会することが出来ましたことは、大変嬉しいことです。

さて、二松學舎は本年で一三五年という長い歴史と伝統を誇る大学です。北海道から沖縄に至るまで、卒業生で組織する松苓会の支部があるというところは、全国から学生が集まってきた大学であるということと、ところが時代の変遷と共に、地方に大学が林立し、様相が一変して、一般には知られない大学になりました。しかし小粒ではあるがピリツとした評価と名声のある大学です。その名声と評価を高めていくことが大学発展につながると思います。つまり二松學舎を卒業した松苓会員の活躍が大学の評価、名声につながります。

まさに大学と松苓会は車の両輪となつて、大学発展のために協力してゆかねばなりません。このことを基本において、松苓会員一人一人を大切に、本学卒業生が単なる出身校でなく、母校であるという思いに至る拠り処として存在感のある松苓会にしたい。そのための改革を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくご支援ご協力をお願い申し上げます。



学校法人 二松學舎
理事長 水戸 英則

松苓会に於かれましては、大学に対し日頃からご支援を頂いており、厚く御礼申し上げます。松苓会員総数は二万五千名を超え、今後とも大学の後援会としては、力強い存在であると期待しております。

さて、現在、長期ビジョンプロジェクトを遂行中です。学内外の様々な方から頂いた、大学の将来像についての御提言二百件余を、五つのワーキンググループで、議論し、答申を得ております。その骨子は、①建学の精神に今一度立ち返り、これを基にグローバル化、情報化、知的社会化などの環境に適応できる人材像を明確に描き出す、②その人材像

二松學舎大学 学長 渡辺 和則

松苓会の皆様には、此の度の震災と原発事故による被災学生及び特別な事情により学費納入が困難な学生に対して経済的支援を賜り、有難うございます。

さて、平成25年度からは全学年の教育を九段校舎で行うという「九段集約」が完全実施されます。そのための準備として、九段1号館の改修、3号館の新築、近隣建物の賃借による学生ブックラウンジの設置などを行って参りました。九段集約の最大の利点は4年間一貫教育が可能になると



いうところにあります。そこで来年度からはそれに相応しいカリキュラムに改編し、文学部においては、古典と近現代の文

を実現するために、大学で、どの様な教育が必要になるのか、③各大学生において、入学、在学中、卒業の各段階において、経済的・精神的な悩み、就職など各種相談に総合的に対応出来る学生支援体制の充実、④九段キャンパス整備の方向性、⑤健全な財務制度や組織・人事制度のあり方など、であります。ワーキンググループの構成メンバーは現在三十〜四十代の若手・中堅教職員であり、自ら掲げた課題を、自ら未来を切り拓く形で、これを超える、実現していくことが期待されます。今後はこれを長期ビジョンとして取り纏め、一三五周年記念式典の場で、公表する予定です。長期ビジョンの目的は、著名人を輩出し、その後高校教員の輩出で全国的に名を馳せた本学の栄光の時代、「ブランドイメージの復活」であります。

今後とも、引き続き松苓会の皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます、挨拶といたします。

学の専門的基礎をしっかりと教授するという文学部の伝統的な教育を実践します。また国際政治経済学部においては、学部開設時の教育目標の一つであった英語教育の立て直しを図るべく、新に英語教育特別プログラムを設置し、英語を使い熟すことのできる人材の養成を目指します。

ところで、教員採用試験においては、一次及び二次試験の合格者数が近年増えて来ております。しかしいわゆる有名企業への内定者数と公務員試験の合格者数については、検討の余地が大いにあります。本学の両学部に対する予備校等による偏差値が最近高くなりましたが、九段集約を「奇貨居くべし」として、教育研究水準の一層の向上を図らなければならぬと考えております。今後ともご支援の程宜しく申し上げます。

平成二十四年度 第十七回松苓会定期総会

平成二十四年六月十六日

平成二十四年度松苓会定期総会が六月十六日（土）の十三時から二松學舎大学十一階会議室で開催された。

二十四年度定期総会は、来賓として水戸英則理事長・渡辺和則学長をお迎えして行われた。全国から二十七支部の支部長が参加した。

出席者は次の通りである。

◎来賓

水戸 英則 理事長（相談役）
渡辺 和則 学長（相談役）
佐佐木 鍾三郎 顧問
末吉 榮三 顧問

◎本部

神津 賢一郎 会長
大地 武雄 副会長
廣田 克己 副会長
神河 秀春 幹事長
奥井 基繼 監事

◎常任幹事

千葉 仁（宮城）
新井 喜義（群馬）
手島 茂樹
小林 憲二
井上 和男
小町 邦明
助川 忠弘

◎幹事

山崎 郁紀
齋藤 裕（山形）
武内 昭徳（兵庫）
大西 邦美（香川）
加茂 忍（大分）
金城 健一（沖縄）
五十嵐 清
西園 隆士

◎支部長

増井 義昭（北海道）
北村 博（福島）
町田 哲夫（埼玉）
辻 将一（千葉）
平野 光治（神奈川）
板山 俊介（山梨）
坂井 福作（新潟）
中道 佳宏（福井）
山本 昇平（静岡）
廣田 康男（京都）
小谷 章公（鳥取）
江角 仁（島根）
平岡才二郎（広島）
大倉 明子（徳島）
上田 善達（愛媛）
坂本 和生（高知）
永淵 道彦（福岡）
黒瀬孝志郎（長崎）
宮崎 宣幸（宮崎）

◎事務局

修

◎委任状

磯 水絵・那花 隼
俵田 賢嗣・芹川 哲世
岡村 幸男・高柳 幸雄
志村 孝・小西 明徳
宮本 義孝・三浦 基
寺内 進・関 保典
小島 貴雄・菅野 成也
竹内 秀人・新海 守
稲垣 武嗣・角井 良暢
辻 一・明治 利隆
小山 正敬・吉原 一寛
岡元 正昭

（順不同 敬称略）

総会は小町常任幹事の司会により、開会が宣言された。続いて物故者への黙祷があった。

事務局から、構成委員六十六名中、出席者三十九名、委任状二十三名の合計六十二名で総会が成立するとの報告があり、確認された。

会長挨拶で支部長交代等の報告があり、その後水戸理事長・渡辺学長から挨拶を頂いた。大地副会長の議長選出の後、書記に五十嵐幹事・西園幹事が任命された。議事録署名人名には、千葉常任幹事、井上常任幹事が指名された。

定期総会次第

- 一 開会のことば
 - 二 物故者への黙祷
 - 三 議事録の確認
 - 四 決議定足数の報告
 - 五 会長挨拶
 - 六 理事長・学長挨拶
 - 七 議長選出・書記任命
 - 八 議事録署名人名の指名
 - 九 議案審議
 - ① 平成二十三年度事業報告
 - ② 平成二十三年度
収支決算報告並びに監査報告
 - ③ 平成二十四年度
事業方針並びに計画（案）
 - ④ 平成二十四年度予算（案）
 - ⑤ 二松學舎松苓会奨学金
貸与規程の一部改正
 - ⑥ その他
- 諸報告
- ① 平成二十三年度人事異動報告
 - ② 松苓会ホームページの
開設について
 - ③ ホームカミングデーの
進捗状況について
 - ④ 法人との連絡協議会について
 - ⑤ その他

定期総会

議案審議

①平成二十三年度

松苓会事業報告

神河幹事長から、平成二十三年度事業報告並びに支部活動報告があった。主な事業報告は次の通りである。

【平成二十三年】

四月五日（火）

松苓会室移転の搬出搬入作業

四月九日（土）

第四回役員候補者選考委員会

四月十二日（火）

第一回三役会議

（役員候補者選考委員会報告等）

四月二十五日（月）

大学入学式（中洲記念講堂）

五月十六日（月）

松苓会会計監査（山岸・磯監事）

第二回三役会議

（奨学金貸与規程について他）

五月二十四日（火）

臨時三役会議

（学校法人二松學舎評議員の選出基準について他）

五月二十八日（土）

第三回三役会議

（総会議案書について他）

第一回常任幹事会出席十四名

五月三十一日（火）

第一回法人との連絡協議会

（大学の近況報告・地区別父母懇談会・東日本大震災被災学生支援対応について他）

六月十一日（土）

第一回幹事会（出席二十四名）

第十六回定期総会（出席四十二名）

七月十九日（火）

第四回三役会議

（東日本大震災の義援金等）

八月五日（金）

第五回三役会議（新三役）

（新役員の委嘱並びに役割分担等）

九月六日（火）

第六回三役会議

（第二回常任幹事会について他）

九月二十九日（木）

第七回三役会議（拡大）

（第二回常任幹事会について他）

十月四日（火）

第八回三役会議

（本部役員紹介・常任幹事紹介・東日本大震災被災学生への対応・ホームカミングデー実施の件他）

十月十二日（水）

第九回三役会議

（幹事長、新役員の確認・常任幹事会・東日本大震災被災学生への対応について他）

第二回法人との連絡協議会

（松苓会新役員・松苓会支部総会開催状況・東日本大震災の義援金について他）

十月十五日（土）

第十回三役会議

（第二回常任幹事会の運営について）

十一月三日（木）

第七回ホームカミングデー開催

十一月十九日（土）

「『論語の学校』

—RONGO ACADEMIA—」助成

第二回常任幹事会

（本部役員紹介・常任幹事紹介・東日本大震災被災学生への対応・ホームカミングデー実施について他）

十一月二日（水）

二松學舎大学「二松學舎祭（創縁祭）」助成

十一月三日（木）

第七回ホームカミングデー開催

十一月十九日（土）

「『論語の学校』

—RONGO ACADEMIA—」助成

十一月二十二日（火）

第十一回三役会議

（松苓会貸与奨学金規程・ホームカミングデー実施結果・国際政治経済学部設立二十周年記念卒業生交流会）

十一月二十三日（水）

「平成二十三年度全国大学生・高校生 漢詩コンクール」助成

十一月二十六日（土）

「二松學舎大学国際政治経済学部設立二十周年記念卒業生交流会」助成（神津会長他出席）

二月十四日（火）

東日本大震災被災学生への御見舞金贈与式（学生十七名、学長・会長他出席）

第十三回三役会議

（松苓会ホームページ・定期総会の持ち方他）

三月六日（火）

第十四回三役会議

（第三回常任幹事会の運営等について他）

三月十日（土）

松苓会奨学金貸与式（学生二名）

第三回常任幹事会

（松苓会ホームページ・平成二十五年定期総会の持ち方・松苓会貸与奨学金の規程・松苓会八十周年記念事業・平成二十四年度ホームカミングデーについて他）

三月十五日（火）

松苓会奨学金貸与式（学生一名）

三月十九日（月）

平成二十三年度学位記授与式（神津会長出席）

三月二十三日（金）

松苓会課外活動助成費授与式（学生三名）

三月二十七日（火）

松苓会課外活動助成費授与式（学生一名）

【平成二十四年】

一月七日（土）

学校法人二松學舎新年互礼会

（神津会長他出席）

第十二回三役会議

（新年度の活動・義援金の配分方法・貸与奨学生の募集他）

この他に

・ホームカミングデー実行委員会

四回

・活性化委員会 四回
 ・会報編集委員会 六回
 開催した。

平成二十三年度支部活動報告

【平成二十三年】

七月二日(土)

東京都支部総会

神津会長、大地副会長、

出席 三十七名

七月九日(土)

山形県支部総会

松田前副会長出席 十二名

七月三十一日(日)

長野県支部総会

(鈴木教授、大山理事長、

五十嵐総務・人事部長出席) 十名

七月三十一日(日)

岩手県支部総会 五名

八月六日(土)

千葉県支部総会

大地副会長出席 二十名

八月十四日(金)

宮城県支部総会 九名

八月十九日(日)

神奈川県支部総会

神津会長出席(渡辺学長出席)

二十五名

八月二十日(土)

島根県支部総会 八名

八月二十七日(土)

大分県支部総会 十名

八月二十七日(土)

北海道支部総会 十名

八月二十七日(土)

宮崎県支部総会 四名

九月三日(土)

秋田県支部総会 五名

九月四日(日)

埼玉県支部総会

大地副会長出席 十三名

十月一日(土)

北海道支部道南分会 十一名

十月二十九日(土)

静岡県支部

廣田副会長出席 十二名

【平成二十四年】

一月十三日(金)

北海道支部新年会 六名

一月十五日(日)

神奈川県支部賀詞交歓会

廣田副会長出席 十一名

一月二十一日(土)

群馬県支部総会

(源川教授出席) 十六名

二月十八日(土)

近畿連絡協議会総会・新年会

(渡辺学長出席) 十名

審議の結果、異議なく承認した。

②平成二十三年度松苓会

収支決算報告・会計監査報告

神河幹事長から、六ページのとおり収支決算報告、続いて奥井監事から会計監査報告があった。審議の結果、異議なく承認した。

③平成二十四年度松苓会
 事業方針並びに計画(案)

神河幹事長から、平成二十四年度の事業方針と計画について、七・八ページのとおり説明があった。審議の結果、異議なく承認した。

④松苓会予算(案)

神河幹事長から、九・十ページに掲載の予算案について説明があった。審議の結果、異議なく承認した。

⑤二松學舎松苓会

奨学金貸与規程の一部改正(案)

神河幹事長から、奨学金貸与規程の一部改正について、改正箇所二点についての説明があった。

一点目は、規程の文の整合性から、第五条の「奨学金の貸与額は、当該年度学納金(授業料及び施設費)の二分の一以内とする。」を「半額」と改正した。

二点目は、第十三条の(三)(返還方法)について、「毎年度、**四月末日**までに松苓会指定の口座へ振り込む。」を「**十二月二十七日**」と改正した。

改正の理由は、就職してすぐの四月では、返還が難しく、返還しやすくなる十二月まで猶予するようにした。

審議の結果、異議なく承認した。

諸報告

①平成二十三年度人事異動

☒支部長交代

北海道支部

新任 増井 義昭(三十九回)

退任 奥村 悠二郎

東京都支部

新任 井上 和男(四十二回)

退任 木村 正雄

神奈川県支部

新任 平野 光治(四十回)

退任 廣田 克己

山梨県支部

新任 板山 俊介(三十六回)

退任 植松 永雄

静岡県支部

新任 山本 昇平(四十回)

退任 永井 陵次

京都府支部

新任 廣田 康男(五十四回)

退任 伊藤 富雄

☒事務局交代

新任 佐藤 修(四十一回)

退任 畠山 幸治



挨拶する神津会長

平成23年度
松苓会会計収支決算
(平成23年4月1日～24年3月31日)

◎収入の部	(単位：円)
前年度繰越金	1,928,233
入会金	3,615,000
小計	5,543,233
会費	
新卒者終身会費	10,095,000
既卒者終身会費	849,650
小計	10,944,650
利息	7,483
雑収入	18,354
収入の部合計	16,513,720
◎支出の部	
事業費	
卒業生懇親会費	717,163
松苓会報等発行印刷・制作費	1,099,938
発送費	1,628,696
『茯苓』発行費	441,000
小計	3,169,634
支部助成	
支部運営助成費	1,371,757
支部報発行助成費	330,000
支部強化助成費	0
小計	1,701,757
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	100,000
松苓会奨学金	1,000,000
教育研究大会助成費	0
小計	2,100,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	120,000
県人会助成費	0
卒業記念品	396,375
小計	566,375
事業費合計	8,254,929
運営費	
会議費	124,200
旅費・交通費	1,591,100
職務経費	537,000
通信費	175,272
備品費	530,603
印刷費	187,250
消耗品費	75,806
慶弔費	15,500
謝礼金	46,010
手数料	76,780
雑費	0
運営費合計	3,359,521
松苓会基金	
周年事業積立金	1,000,000
終身会員積立金	2,692,000
小計	3,692,000
予備費	757,849
支出の部合計	16,064,299
◎収支差額	449,421 (繰越金)

平成23年度
松苓会基金決算
(平成23年4月1日～24年3月31日)

(1) 周年事業積立金	(単位：円)
決算額	
平成22年度からの繰越	7,014,187
平成23年度繰入	1,000,000
利息	1,117
合計	8,015,304
(2) 終身会員積立金	
平成22年度からの繰越	51,585,087
平成23年度繰入	2,692,000
利息	10,803
手数料(残高証明)	△840
合計	54,287,050

平成23年度
松苓会奨学金決算
(平成23年4月1日～24年3月31日)

◎収入の部	(単位：円)
決算額	
平成22年度からの繰越	2,362,620
平成23年度繰入	1,000,000
利息	378
合計	3,362,998
◎支出の部	
平成23年奨学金貸与	1,395,000
合計	1,395,000
◎収支残高	1,967,998円 (繰越)

以上のとおり平成23年度会計収支決算について報告を致します。

平成24年 3月31日

松苓会会長 神津賢一郎 ㊟

事務局長 畠山 幸治 ㊟

会計監査報告

平成23年度(2011. 4. 1～2012. 3. 31)の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成24年 5月16日

松苓会監事 奥井 基繼 ㊟

松苓会監事 磯 水絵 ㊟

平成二十四年度 松苓会事業方針 並びに計画

二松學舎大学で学んだ学生が、大学を卒業すると同時に松苓会会員になるが、どの程度会員としての認識をもっているのだろうか。このことについて、松苓会は真剣に考えなければならぬ。また、本学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る拠り処としての存在感のある松苓会にしたい。卒業生一人一人を大切に、卒業生のための松苓会とすべく諸事業を改革し推進する。

後五十年目を迎える方を対象に発行してきたが、近年、趣旨と異なる発行となった。今後は、この趣旨に沿った形で再開に向けて検討することとし、暫時休刊することになった。

三、松苓会会報は、今年度は第四十七号（九月下旬・ホームカミングデー案内）・第四十八号（三月十日／卒業式当日）に発行する。

四、活性化委員会は、ホームページの運用や会員との相互連絡ができるよう対策を検討している。さらに、支部活動の活性化、松苓会の組織のあり方、安定的財源の確保などについても今後検討する。

五、支部育成・在校生支援については、次の通りとする。

（一）支部助成費について
①現在多くの支部が活動停滞状況にある。今年度は、活動等を希望する支部と連携を取りながら、総会等の開催支援等を実施する。

②支部活動運営助成については、例年通り支部総会開催費として開催支部に二万円、各支部分会の開催費として開催分会

に一万円を助成する。

③支部運営助成費については、例年通り総会開催費と通信費への助成とする。

（二）支部育成のために平成二十二年度「活性化委員会」を発足させた。ホームページの運用や会員との通信などについて導入できるように計画している。今年度中に骨子を決定し、立ち上げる予定である。

（三）松苓会奨学金については平成二十三年度より貸与とした。今年度も三名まで貸与する。

六、県人会については、地方からの入学者が減少している現今では、各県ごとの会開催は困難な面がある。今後は、地区別に対応するなど、現状にあった対応を検討する。

七、松苓会発足八十五周年に向け、諸事業について検討する。

（幹事会・総会での質疑応答）

ホームページの運用や会員との通信については、大学の「ニショウメール」を活用し、松苓会としてメールアドレスを取得した。総会で

は、各支部のメールアドレスを七月三十日までに登録していただくよう各支部長に依頼した。将来は、メール配信を主体にしていく予定である。

松苓会奨学金については、昨年度から貸与とした。しかし、決定した後に、東日本大震災などで経済状況が悪化したので、奨学生の増員としてはどうかとの提案があった。本部としては、奨学生の貸与は今年度から始まったばかりで、貸与奨学生の返却状況の様子をみながら、今後の検討課題とした。



定期総会 九段1号館11階

平成 24 年度事業計画

平成 二 十 四 年	4月	3日 (火) 3日 (火) 23日 (月)	平成24年度入学式 「祝入学」の横断幕・垂れ幕実施 第1回三役会議 平成23年度決算・24年度予算の打ち合わせ 予算案作成準備 第2回三役会議 平成23年度決算の確認・24年度予算の修正等	
	5月	8日 (火) 中 旬 15日 (火) 16日 (水) 19日 (土) 25日 (金)	第3回三役会議 決算・・事業報告 平成24年度事業計画・予算 (案) 第1回法人との連絡協議会 平成23年度会計監査 第1回常任幹事会 ホームカミングデー実行委員会	
	6月	2日 (土) 16日 (土)	活性化委員会 第4回三役会議 平成24年度全国大学・高校生漢詩コンクール助成 平成24年度幹事会 第17回松苓会定期総会	
	7月	3日 (火)	第5回三役会議 松苓会報第47号編集委員会 ホームカミングデー実行委員会	
	8月	5日(日)	教育研究大会助成 松苓会報第47号編集委員会	
	9月	4日 (火) 8日 (土) 20日 (木) 下 旬	第6回三役会議 第2回常任幹事会 松苓会報第47号編集委員会 松苓会報第47号発行 支部助成費申請書提出	
	10月	2日 (火) 10日 (水)	第7回三役会議 創立135周年記念式典 第2回法人との連絡協議会	
	11月	3日 (土) 上 旬 17日 (土)	二松學舎祭(創縁祭)助成 平成24年度二松學舎大学ホームカミングデー 第8回三役会議 活性化委員会 「論語の学校」シンポジウム助成	
	12月	上 旬	第9回三役会議 第3回法人との連絡協議会	
	平成 二 十 五 年	1月	7日 (月) 中 旬	新年互礼会 第10回三役会議 松苓会報第48号編集委員会
		2月	下 旬	松苓会報第48号編集委員会 第11回三役会議 第3回常任幹事会 活性化委員会 支部助成費申請書提出 (支部助成費支給予定)
		3月	上 旬 中 旬 19日 (火)	第12回三役会議 第4回法人との連絡協議会 平成24年度学位授与式 卒業記念品・「祝卒業」の横断幕・垂れ幕実施 松苓会報第48号発行・配布

平成24年度 予算(案)について

平成二十四年度予算については、前年度までの慣習等の見直しを行った。特に前年度までの「松苓会基金」を「特別会計」として内容も一部変更した。平成二十四年度予算について、変更点等を中心に説明する。

【全体の状況】

平成二十四年度の予算は、二十三年度比マイナス百万円の約一千五百万円となる。これは、①前年度からの繰越金の減少と、大学入学者数の減少によるものである。ともあれ、緊縮財政となっている。

【特別会計予算について】

松苓会の会計は、単年度会計と特別会計との二本立てになっている。単年度会計は、その年度を運営するための会計であり、特別会計は将来に備えるための会計である。

平成二十三年度までは、特別会計を「松苓会基金」名のもと①周年事業積立金、②終身会費積立金、③松苓会奨学金の三項目となっていた。しかし、周年事業については、当初目的は松苓会館建設資金としての積み立て基金であり、大学九段校舎新

築後の松苓会室への入居で一応の目的達成がなされていることと、毎年度の単年度会計において、年度当初には業者への支払いが滞る状況なかで、慣例として終身会費積立金の一部を借り入れていたこと、などがあり、特別会計を現状に合った形に見直しをした。

そして、①松苓会基金(年度当初の支払い用)、②周年事業積立金(松苓会の記念行事等)、③終身会費積立金(終身会費納入者への松苓会報発送費用で松苓会報発送費一回分支出)、④松苓会奨学金(貸与奨学金用)の四項目とした。

【収入の部について】

収入については、その大部分を在学生に頼っている状況である。既卒者終身会費も七十万円を見込んでいる。ここでいう既卒者とは、平成十四年度以前の卒業者を指している(平成十四年度以降の卒業生は、卒業時に終身会費として一括納入済)。収入を増やすためには、既卒者終身会費の増収が不可欠である。未納となっている卒業生の協力をお願いする次第である

【支出の部について】
緊縮財政を念頭にはしているが、

事業費については前年度とほぼ同額の八百七十七万円とした。特に、支部助成については、若干ではあるが前年度決算額を上回る予算とした。これにより、各支部の活動がさらに活発になることが期待される。

運営費は極力見直して、三百三十三万五千円とした。その中で、旅費・交通費と職務費(本部役員や支部長の会議等出席時の支払費)についても見直し減額とした。

【大幅な見直し点】

事業費のうち、松苓会奨学金は、貸与学生数が三名で年間学納金の半額である四十六万五千円の三名分として百四十万円を計上した。次に、松苓会報発送費二回のうち、一回分が今年度予算からの支出となる。あと一回分は、松苓会特別会計予算のうち、「終身会費積立金」から支出する。今後も発送費の一回分は、「終身会費積立金」からの支出となる。

『茯苓』については、発行当初の目的である、大学(専門学校)卒業五十年を迎えた卒業生対象の記念誌という観点から、昨年までの刊行で初期の目的が達成されていることから、当分の間は発行を見送ることにしたので支出費はない。

特別会計のうち、終身会費積立金については、今年度卒業生六百八十名に松苓会報を年一回五十年間にわ

たって郵送する費用として二百七十二万円(八十円×六百八十名×五十年)を計上した。

周年事業積立金については、前年度までは一律百万円を積み立てていたが、今年度からは、年度ごとの活動事業が実現できること、特に支部助成と在学生支援事業が十分にできること、終身会費積立金は全額組み入れることを充たしたうえで周年事業への組み入れ額を決定することとし、平成二十四年度は五十万円とした。

以上が平成二十四年度の予算概要である。松苓会は、各支部の活動を支援すると同時に、卒業生会員への終身サービスを行わなければならない。限られた予算を十二分に有効活用することを肝に銘じて予算を執行する所存である。



定期総会で説明する本部役員

平成24年度
松苓会会計収支予算
 (平成24年4月1日～25年3月31日)

◎収入の部		(単位：円)
		予算額
前年度繰越金		449,421
入会金		3,655,000
	小計	4,104,421
会費		
新卒者終身会費		10,200,000
既卒者終身会費		700,000
	小計	10,900,000
利息		7,000
雑収入		0
	収入の部合計	15,011,421
◎支出の部		
事業費		
卒業生懇親会費		800,000
松苓会報等発行		
印刷・制作費		1,100,000
発送費		800,000
『茯苓』発行費		0
	小計	1,900,000
支部助成		
支部運営助成費		1,400,000
支部報発行助成費		350,000
支部強化助成費		100,000
	小計	1,850,000
母校支援事業		
教育振興資金助成費		1,000,000
教育事業後援費		200,000
松苓会奨学金		1,400,000
教育研究大会助成費		50,000
	小計	2,650,000
在学生支援事業		
学園祭助成費		50,000
課外活動助成費		120,000
県人会助成費		100,000
卒業記念品費		700,000
	小計	970,000
	事業費合計	8,170,000
運営費		
会議費		120,000
旅費・交通費		1,500,000
通職通信費		450,000
備信品費		230,000
印刷費		500,000
消耗品費		100,000
消耗品費		75,000
謝礼		15,000
手数料		70,000
雑費		75,000
	0	
	運営費合計	3,135,000
特別会計		
周年事業積立金		500,000
終身会員積立金		2,720,000
	小計	3,220,000
予備費		486,421
	支出の部合計	15,011,421

平成24年度
松苓会特別会計予算
 (平成24年4月1日～25年3月31日)

1 松苓会基金		(単位：円)
		予算額
周年事業積立金からの繰入収入		2,000,000
	合計	2,000,000
2 周年事業積立金		
平成23年度からの繰越		8,015,304
平成24年度繰入		500,000
利息		2,000
松苓会基金への繰入支出		△2,000,000
	合計	6,517,304
3 終身会員積立金		
(収入の部)		
平成23年度からの繰越		54,287,050
平成24年度繰入		2,720,000
利息		20,000
	合計	57,027,050
(支出の部)		
平成24年度松苓会報発送費		640,000
	合計	640,000
4 松苓会奨学金		
(収入の部)		
平成23年度からの繰越		1,967,998
平成24年度繰入		1,400,000
平成24年度貸与返還金		279,000
利息		2,000
	合計	3,648,998
(支出の部)		
平成24年度奨学金貸与		1,395,000
	合計	1,395,000

終身会員手続きのお願い

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われております。今後、全松苓会員に年2回の「松苓会報」を送ることができるようにするためには、全松苓会員が終身会員となり、終身会費を納入していただくことが、松苓会の発展のために欠かせません。まだ終身会員の手続きを済ませていない方は、この機会にぜひ手続きしていただくようよろしくお願いいたします。

寄付金のお願い

これまで、松苓会としてはご寄付をお願いしてきませんでした。新規の企画や事業を行うにあたっては運営資金が必要となります。松苓会の事業推進と安定した発展のために金額の多少にかかわらず、一口1,000円で寄付金を募ります。ご協力よろしくお願いいたします。

二松學舎松苓会幹事会開催

平成24年6月10日

総会に先立って恒例の幹事会が開催された。本部の三役、常任幹事、幹事、監事、事務局の20名が出席し、総会の議案についての説明とそれに対する審議が行われた。議案に対する反対意見はなかったが、奨学金貸与の人数を増やせないかという意見があった。本部としても東日本大震災や長びく不況など学生の置かれていく経済状況が厳しいだけに奨学生の増員も考えないわけではないが、奨学金が貸与という形になって一年目であり、償還などの様子を見てから検討したいという回答で了承を得た。出席者は以下の通りである。

出席者（敬称略）

- | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|----|-----|-----|----|
| 幹事 | 加茂 武内 | 山崎 昭徳 | 助川 郁紀 | 井上 和男 | 手島 茂樹 | 千葉 仁 | 常任幹事 | 監事 | 幹事 | 副会長 | 副会長 | 会長 |
| | 忍 金 | 大西 健一 | 齋藤 裕 | 小町 邦明 | 小林 憲二 | 新井 喜義 | 奥井 基繼 | 秀春 | 克己 | 武雄 | 賢一郎 | |

事務局 五十嵐 清・西園 隆士
佐藤 修



松苓会幹事会（大学九段校舎 12 階）

総会懇親会の開催

於 九段校舎地下1F 食堂

総会終了後、地下学生食堂に場所を移して、会費制の懇親会を開催した。

神河幹事長の司会によりスタート。神津会長の挨拶ののち、乾杯は当日参加者中最長老である末吉三榮顧問（十二回卒）にお願いした。末吉顧問は、総会参加者がこうして懇談できる機会は大切であり、更に同窓の輪を広げられんことを希望するとの挨拶の後、大学と松苓会の益々の発展と参加者の健康を祝して高らかに乾杯した。その後は、あちらこちらで同期ごとや地区ごとの輪が出来、あつという間に終了の時間となった。

締めめの挨拶は、一番遠くからの出席者である金城健一沖縄県支部長（三十八回卒）が、同窓生としての喜びや来年の再会を祈念して万歳三唱してお開きとなった。

通り一遍の総会だけでなく、会費制ながらも、懇親会を開催したことは、年に一回の総会では語り合えない各支部のことなどについても語り合い、あるいはアドバイスが出るなど有意義なひとときとなった。

なお、今回は小町常任幹事が食堂側と特に交渉し、当初予算よりも大幅に低予算で素晴らしい内容になったことを付記したい。

（文責 神河）



懇親会参加者



会費制で行なわれた懇親会

松苓会の組織と現状

副会長 廣田 克己

松苓会の全体像と現状を把握している会員が多くないと思われることから、組織と現状、並びに問題点について報告する。

1. 会員

現在、卒業生数は25,000人を超えているといわれる。しかし、その所在についての正確な把握はできていないのが現状である。

2. 組織

松苓会には以下の組織がある。

- (1) 総会
年に1度、定例総会が行なわれている。出席者は都道府県支部長、本部役員(三役、常任幹事)、幹事、監事、松苓会事務局で、委任状を含めて過半数で成立する。
- (2) 二役会議

会長、副会長、幹事長で構成され、原則として毎月開催して会務を協議している。事務局が陪席する。また現在、会長のもとに「松苓会報編集委員会」と「活性化委員会」の特別委員会が置かれている。

「松苓会報編集委員会」は年2回の会報を発行している。

「活性化委員会」は松苓会の活動全般を見直し、検討を行なっている。任期は2年で、今年2期目

に入った。1期目の答申からホームページの開設が具体化した。

(3) 常任幹事会

年4回が開催され、三役会の会務遂行を協議する本部役員である。

(4) 幹事会

本部が提案する総会議案等を審議する。

(5) 監事

会計監査を含めてすべての会務が公正に執行されているかどうかを監査する。

(6) 支部

47都道府県に支部が設置されている。現在、総会の開催されている支部は約4割である。

3. 現状と問題点

組織の項でも指摘したが、総会開催支部が少ないことが松苓会の運営にとって大きな障害となっている。最も大きな問題は(1)会員の掌握と(2)会費の問題である。

(1) 会員の掌握について

松苓会は独自に卒業生の住所録を持つていない。転居先を確認するだけの組織力と労力を持っていないため、大学から情報の提供を受けているのが現状である。

大学は卒業生に対する連絡の必

要から卒業後の居住先の把握を心掛けてはいるが、転居・転職や結婚などにより、その所在が分からなくなる例が多い。

松苓会としては支部の活動を活発にして、会員の把握や協力をお願いすることが目的にかなうものと考えている。以前から支部の活性化をスローガンに掲げてきたが、なかなか前進しないのが現状である。その原因の一つに本部と支部の活動が正確に認識されていないことがあげられる。中でも支部活動が理解されていないこと、特に本部が所管する終身会員制と支部活動費は別ということが周知していない。本部からの支部に対する援助は支部活動費の一部であり、運営資金の多くは支部会費で賄われているということが理解されていない。

(2) 会費について

松苓会の運営はそのほとんどが会費によるものであり、他大学のような寄付金はほとんどない。平成14年度から終身会員制度が導入され、それ以降、年会費の請求がなくなった。しかし、平成13年度以前の卒業生に対する手立てが不十分であったため終身会員制度になつたことが周知できていないのが現状である。現在、全卒業生25,000名以上のうち、平成13年度以前の卒業生が17,000名以上いる。そのうち、1割以

下しか終身会員手続きをしていない。平成13年度以前の卒業生で終身会員手続きをする件数がこの数年は約60件前後である。したがって、松苓会の活動資金の大半は、その年の卒業生からの終身会費ということになる。終身会員サービスが今後も継続的に必要であることを考えると、現状のままでは近い将来破綻することが予測される。因みに終身会員へのサービストは「松苓会報」や「ホームカミングデー」費用などのことをいう。

しかし、終身会員手続きの連絡も会報も手続きした会員にしか届かないというのが現状である。ホームページなど終身会員以外への情報の周知についての改善策を模索しているが、費用などの問題もあり十分とは言えない状況にある。終身会員手続きの希望は本部に問い合わせしてほしい。

また、前述のとおり松苓会の根幹をなす支部活動が支部会費を以て行われているということが会員に周知され、各支部が活発に活動するようにすることが必要である。会費がない支部もあるようだが、通常は2,000〜3,000円の年会費を徴収している支部が多いようである。中には終身会員制度を導入している場合もある。支部によって会費の徴収方法や額が異なるので、居住する都道府県支部長に問い合わせしてほしい。

松苓会各支部総会報告

平成24年6月～24年8月

東京都支部

平成24年6月30日
支部長 井上 和男

平成二十四年度東京支部総会は、六月三十日（土）、九段校舎において開催した。

正午より役員会を開催して当日の役割分担を確認した。

午後一時三十分、中原常任幹事（62期）の司会で総会を開催した。井上支部長（42期）の挨拶の後、大淵常任幹事（50期）が議長となり議案の審議を行った。平成二十三年度活動報告・会計報告を神河事務局長（47期）が、監査報告を菅原監事（53期）が行い、承認された。次いで平成二十四年度活動案・予算案が神河事務局長から提案され、承認され総会が終了した。引き続き、第十五回生涯教育講座に移り、仲摩徹彌氏（学校法人二松學舎理事）による「危機管理の非常識―震災時の危機管理―」と題した講演会を開催した。仲摩氏は、平成七年一月十七日に発生した阪神淡路大震災当時自衛官幹部としてご自身が被災地に勤務しておられ、震災地の救援活動を行った経験をもとに、大災害時のある

べき支援活動などについて実例をもとに講演された。なお、阪神淡路大震災での災害救助の教訓が、今回の東日本大震災に生かされていなかったことにも触れられた。

午後四時十五分からは、会場を十三階のラウンジに移して懇親会が開催された。

菅原監事の名司会のもと、井上支部長の高らかな乾杯でスタート。アルコールのピッチも早く、十三階からの素晴らしい眺望と相まって、参加者はすぐに和やかな雰囲気になりました。来賓の廣田克己松苓会副会長、平野光治神奈川県支部長とも大いにノミネーションが行われた。初参加の野口明宏（51期）・悦子（51期）夫妻や高橋映子さん（53期）は、東京支部の家族的な雰囲気、学生時代に戻ったような気分になったと、感動していた。佐佐木鍾三郎東京支部顧問（15期）もすこぶるお元気でご出席され、二松學舎が困難だった時代のことについてお話をなされた。

午後六時、まだまだ楽しい雰囲気が続くなか、終了の時間が迫ったので全員で記念写真を撮影して終了した。

今年度の参加者は、総会・講演会



二松學舎大学九段1号館にて

山形県支部

平成24年6月30日
支部長 齋藤 裕

二十五名・懇親会二十三名と例年と比較やや少なかったが、初参加の方もあり、例年以上に和気あいあいとした会となった。

平成二十四年六月三〇日（土）午後六時より、七名の同窓生の参加を得て開催しました。

総会では前年度の事業報告と会計決算、本年度の事業計画案及び会計予算案が提案され、いずれも承認されました。

山形県支部の課題は、過去四回の支部総会が酒田市で二回、鶴岡市で二回と庄内地区のみで開催されていることです。同窓生の会員数は他地区と比べて庄内地区が多いことはありますが、山形を中心とする村山地区、新庄を中心とする最北地区、米

沢を中心とする置賜地区で将来的には支部総会を開催したいと思っています。それで、その第一歩として今年度は村山地区、最北地区での懇談会的なものを開催することを確認しました。将来的には庄内地区以外での支部総会の開催を目標に、支部活動を盛り上げていきたいものだと考えています。

もう一つの課題は、会員相互の親睦を深め、支部活動をより充実させていく方法として、研修会、支部報の充実、母校の先生の話をお聞きするなどのことが考えられます。そこで、今年度は総会の前に、日本を代表する時代小説作家・藤沢周平の「鶴岡市立藤沢周平記念館」、鶴岡一の豪商の贅を尽くした住宅「旧風間家住宅丙申堂」（国の重要文化財指定）、「致道博物館」を見学・研修しました。参加者は少なかったものの、こうした機会でもなければなかなか見学することもない文化財、博物館等を見学できたことは有意義なものであったと評価できるのでは



鶴岡市・すず音にて

長野県支部

平成24年7月28日
支部幹事 江村 春彦

ないかと思っております。次年度は酒田市で開催することになっているので、建築と日本庭園が美しい「本間美術館」、日本有数の酒田の豪商「本間家旧本邸」、井原西鶴の「日本永代蔵」に取りあげられている廻船問屋「鑑屋」を見学研修する予定でございます。今後は、他支部に学ばせていただいたり、また当支部の皆さんの意見をお聞きしたりなどして、よりよい支部報、研修会、支部活動にしていきたいと思っております。

楽しく杯を重ね、談笑のうちに懇親会は盛会裏に終わりました。

平成24年度長野県支部総会が、去る平成24年7月28日(土)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催されました。支部総会には、法人の来賓として理事長の水戸英則先生、松苓会来賓として会長の神津賢一郎先生にご出席頂きました。県内同窓の出席者は、5名でした。

総会では、関保典支部長より二松學舎大学を中心とする法人の様子の報告を含めた挨拶があり、続いて神津松苓会会長より同窓会としての松苓会の取り組み等についてお話がありました。議事については、平成23年度活動報告、会計報告、さらに

平成24年度予算案が満場一致で承認されました。

総会終了後、水戸理事長より「二松學舎の将来像」と題したご講演をいただきました。ご講演では、二松學舎の歴史を踏まえた現在の位置付けから、今後も大学が存在していくための長期ビジョンに基づくさまざまな取り組みについてのお話がありました。母校の発展を願う同窓生として、具体的な状況分析や経営戦略をお聞きし、大変頼もしく感じた次第です。また、経営面、教育面の両面から教職員一丸となつての大学改革に対する情熱を感じました。

懇親会では、支部の松苓会に若い世代を多く参加させるためにはどうしたらよいか、という話題が出され、神津松苓会会長から神奈川県の例を挙げてのアドバイスもあるなど、支部の活性化、発展のために建設的な意見交換をすることができました。

岩手県支部

平成24年7月29日
支部長 宮本 義孝

岩手県支部は、七月二十九日(日)、ホテルルイズ(盛岡市)で総会を開きました。

出席者は九名でした。

畑功、小山尊史、瀬川孝三、小笠原克夫、目黒泰、高橋廣至、小山田一の諸氏と宮本義孝、それに本部から派遣された神河秀春氏です。

総会は、昨年度支部活動や収支決算の報告につづいて、支部会員の動向やこれからの会の在り方などについて話し合いがもたれました。

岩手県では、東日本大震災から一年半ほどたちますが、未だ心に傷を負ったままの会員が何人かおります。そういう人たちに支部がどう支援したり励ましたりしたら良いか、とか、また、活動を考える上で、松苓会本部と支部、或は松苓会と大学の連携がもう少し密にできないかと云った内容です。

例えば、毎年、学生募集で学校説明会が盛岡で開かれているようなのですが、何処からも支部にそういう話は入ってきません。また、数年前、大学在学生の「地域父母会」が盛岡であった時も同様でした。

前もってもし声が掛かっていれば、情報を支部会員に流したり、行って何か手伝うこともできるかと思

います。

その他、呼びかけにまったく反応のない会員の扱い方だとか、総会出席者を増やす手立てとかが話された後、席を改め懇親会をもちました。

懇親会では、神河氏から「おとなの論語」に載った「日本の論語教育」のコピーが渡され、二松學舎の教育的意義について考え合う機会をもちました。

それから卒業生の近況の報告もあり、皆、それぞれの持ち場がんばっているという感を強くしました。

例えば、今、「盛岡てがみ館」で啄木没後百年を記念した企画展が開かれています。館長の川村敏明氏は40回の卒業生です。

また、震災復興のため書道研究「平心会」がチャリティ小品展を開きますが、その会長は、37回卒の佐藤紳夫氏です。

更に、洋野町で『撃竹』同人たちの詩の朗読会がありました。それをお世話したのは、38回卒の齋藤岳城氏です。

そして、NHK「新漢詩紀行」のテキストに載せた文章をまとめて



長野市・ホテル信濃路にて



盛岡市・ホテルルイズにて

『詩跡を訪ねて』と云う本を著した渡部英喜氏は博6回の卒業生です。明治三六年発行、岩手の文芸誌『虞美人草』を復刻した小笠原克夫氏も34回の卒業生です。

神奈川県支部

平成24年8月12日
支部長 平野 光治

平成24年8月12日(日)10時より、県立地球市民かながわプラザにて、第35回二松學舎松苓会神奈川県支部総会が開催されました。

中川俊一郎副支部長の開会の辞に始まり、平野光治支部長の挨拶後、山口正樹県央地区長を議長に選出して、議事に入りました。

平成23年度事業報告、同年会計報告が片桐佐和子事務局長から提案され、次いで保田完次監査から監査報告があり、承認されました。次に新役員の提案が承認され、任期4年のスタートが切られました。小林孝彰新事務局長により提案された平成24年度事業計画、同年予算案も大きな拍手で承認されました。

次いで「文学歴史探訪」について森田亨湘南地区長、「賀詞交歓会」について中川俊一郎副支部長より提案があり、全ての議事が終了いたしました。

総会終了後「中国の風土と文学」との演題のもと、二松學舎大学副学長吉崎一衛様の講演が行われまし

た。漢詩鑑賞においては日本の感覚のみでなく、中国の歴史、気候・風土、生活実態を知ることの必要性・重要性を笑いを交えて分かりやすくお話しいただきました。教育関係者の多い中、授業にかかわることとしても学ぶことの多かつた講演でした。

講演終了後、参加者全員で記念撮影をし、同プラザのレストランに席を移し、井上興正顧問による乾杯後、来賓の松苓会本部監事奥井基繼様、東京支部事務局長神河秀春様、千葉県支部副支部長前田康晴様、東京支部顧問木村正雄様よりご丁寧なるご挨拶、ご祝辞をいただきました。

その後、参加者全員より一言いただきました。和やかな雰囲気のもと保田完次副支部長の閉会の辞で終了いたしました。

総会参加者20名以上を願って活動してまいりましたが、2年続けて達成されるとともに、卒業間もない若々しい会員の参加があるなど、松苓会事業に新たな歩みと道筋が示された意義ある総会となりました。総会参加者は次の通りです。(敬称略)

来賓

本部監事 奥井 基繼 (修14回)
東京支部事務局長 神河 秀春 (47回)

千葉県支部副支部長 前田 康晴 (49回)

講師

二松學舎大学副学長 吉崎 一衛 (博8回)

出席者

東京支部顧問

木村 正雄 (25回)

神奈川県支部

顧問 井上 興正 (27回)

顧問 廣田 克己 (修5回)

支部長 平野 光治 (40回)

副支部長 保田 完次 (41回)

副支部長 中川俊一郎 (修10回)

事務局長 片桐佐和子 (57回)

川崎地区長 小林 孝彰 (38回)

湘南地区長 森田 亨 (48回)

県央地区長 山口 正樹 (53回)

横浜会員 伊藤 文雄 (45回)

横浜会員 藤井 隆晴 (47回)

横浜会員 渡邊憲一朗 (80回)

三浦会員 石川 慶子 (80回)

湘南会員 山本 静男 (55回)

県央会員 佐藤 馨 (政修5回)

県央会員 保田 陽子 (39回)

県央会員 岡野 桜 (72回)

県央会員 藤平 翔 (79回)

千葉県支部

平成24年8月4日
支部長 辻 将一

去る8月4日(土)午後2時より、『プラザ菜の花』にて、滞りなく「松苓会千葉県支部総会」を終え、引き続き名誉教授青山忠一先生による特別講演会「江戸の川柳・俳風柳樽の世界」と題する演目で、戯作文学・川柳の妙味を、ご講演戴きました。ご出席の同朋からも、「あの哀えることのない名調子『青山節』に酔いしれながら、充実した一時を堪能できた。」と絶賛でありました。

その後、竹内恵子(文37回卒)さん経営の「喫茶ボンヴィル」にて、懇親会を行い、過ぎゆく刻を忘れて歓談しました。

【出席者】来賓

講演者 青山 忠一氏(名誉教授)

松苓会副会長 大地 武雄氏(教授)

東京支部幹事長 片山 聖英氏

千葉県支部長 平野 光治氏

他20名。



横浜市・あーすぷらざにて



千葉市・プラザ菜の花にて



中洲先生墓参の会（富士霊園にて）

事業	概要
創立者三島中洲先生墓参の会	中洲忌に当たる5月12日 学校法人・大学・松苓会関係者が富士霊園内の中洲先生のお墓参り
記念式典	10月10日（水）10：00～九段1号館中洲記念講堂 ・式典 ・長期ビジョン発表 ・名誉学位 功労者等称号授与
記念講演会	10月10日記念式典終了後 中洲記念講堂 講演者 養老孟司東京大学名誉教授 演 題 未来を切り拓く文系脳の可能性
祝賀会	10月10日 12：30 九段1号館13階ラウンジ
『文学散歩』出版	文学部編『東京都市文学散歩』『奈良京都文学散歩』に続く3集目神奈川・西東京エリアに焦点を当て現在作成中
『都心で学ぼう！国際政治経済』出版	国際政治経済学部編 戎光洋出版 A5判 120頁 8月10日発行
横溝正史資料公開	大学資料展示室の企画展として、9月～10月に「金田一耕助の足跡」として実施 『横溝正史研究』特集号も計画中
「王羲之の書とその系譜」展 題字コンクール	毎日新聞社等が主催する企画（平成25年1月開催）のチケット題字を本学学生が製作
学術文化振興会講演会開催	九段校舎 中洲記念講堂で11月以降に開催 実施計画を策定中
BS11『賢者の選択』に水戸理事長出演	7月29日（日）に放映 『N 2020PLAN』（長期ビジョン）等本学の取り組みについて対談
文学部シンポジウム	本年度後期に開催 詳細検討中
論語の学校	11月17日（土）中洲記念講堂 講演 樋口公啓東京海上日動火災保険（株）相談役、家井真本学教授
全国大学生・高校生漢詩コンクール	応募受付 9月3日～9月10日 表彰式 11月23日
生涯学習講座	柏校舎で通年講座（国文学〈2〉・中国文学〈2〉・書道・韓国語の合計6講座 各講座10回）を開講中
経済的困窮学生に対する奨学制度拡充	本年度から実施 奨学金支給人員の増員
135周年記念募金	教育研究振興資金募金として実施 募集要項の発送は11月を予定

第十八回教育研究大会

去る八月五日(日)百余名の参加者を得て、中洲記念講堂を中心に大会が盛大に開催された。

平成五年、卒業生教員と教員志望の肝入りで発足して以来、雨海学長の肝入りで発足して以来、十九年の歳月が経過し、昨年度を除いて毎年開催されてきた。卒業生の研究発表会、講演会、在学生を交えての分科会等が開催され、在学生にとっても刺激的な一日となり、教員になる決意を新たにする者もいて、年々成果をあげている。

今年も、『方丈記』成立八百年の年に当り、磯水絵教授による「今、方丈記を読む」と題しての講演があった。その後、小、中、高校に分かれての分科会が開催され、在学生を交えての活発な意見交換が行われた。



磯水絵本学教授による講演会

〈小学校の部〉

お互いの立場や意見をはっきりさせた話し合い活動の指導

東京都昭島市立中神小学校

教諭 吉野 はるな

五年生のディベートと六年生のパネルディスカッションの実践研究発表である。まず「目指せディベート名人五つの心得」により、そのルールや仕方を確認した後、「おやつは必要か」というテーマでのディベート。六年生は、「一〇〇年後の電化製品を考えよう」というテーマで四つの電化製品についてそれぞれ意見をまとめて主張した。成果として「自分の考えを相手にわかりやすく伝えたい」という児童が増えた点で



小学校分科会

〈中学校の部〉

ある。小学校における実践例としては難しいテーマであったが、啓発的であり実りの多い発表であった。

「本の魅力を伝えよう」ープレゼンテーションを用いた国語の授業

千葉県市立さつきが丘中学校

教諭 細川 義文

生徒が自分の好きな本を二冊選び、プレゼンテーションのためのパワーポイントのスライド作成、紹介のための原稿作成、発表の実践研究である。教師が作成したパワーポイントの留意点等を例示した後、生徒達は、
①プレゼン用スライド下書作成
②プレゼン用スライド作成
③プレゼン用読み原稿作成
④発表リハーサル
に意欲的に取り組む。その過程でのA、E、F女の創意工夫、構成、推敲の具体例も提示され、書くこと、話すこと、発表することの大切さと難しさをその成果として挙げている。



中学校分科会

〈高等学校の部〉

言語活動の充実と古典教育ー群読・平家物語研究の視点からの一考察

千葉県敬愛学園高等学校

教諭 土屋 誠

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新学習指導要領に明記されている。この言語活動について、起立させ、姿勢を正して、教科書を手にも、母音を明確に発音させ、腹式呼吸をして大きな声を出して、音読、朗読、群読することがいかに大切であるかの発表である。さらに、方丈記、平家、源氏等の冒頭部分の暗誦により、言葉のもつ「響き」「語感」によって日本人の「根」を養うことが重要であると。



高等学校分科会

全体会の後、十三階展望レストラで懇親会が開催され、遠方からの卒業生も交えて盛会であった。

国際政治経済学部設立20周年記念

卒業生交流会

昨年の十一月二十六日、国際政治経済学部設立二十周年記念卒業生交流会が開催された。

午後二時三十分から九段1号館の中洲記念講堂において式典の部を挙行。松崎サナさん(十一回生)が司会を務めた。

渡辺和則学長、菅原淳子国際政治経済学部長(交流会実行委員長)の挨拶に続き、卒業生を代表して、実行副委員長藤井智明氏(一回生)が、交流会を開催するに至った経緯を織り交ぜながら「この会は今回限りで終わるのではなく、新たなスタートとして、国際政治経済学部卒業生同士、さらには在学生との交流を重ね、先輩、後輩の絆を深めることで、在学生の卒業後の進路についても支援できる場として継続していきたい。」と挨拶。次いで二松學舎松苓会(大学同窓会)会長神津賢一郎氏の祝辞で式典は終了した。

続いて、同会場にて松岡一夫客員教授(元国際政治経済学部教授・初代キャリアセンター長)による「国際政治経済学部の卒業生に期待すること」と題した講演が行われた。

午後四時三十分からは、会場を十三階ファカルティ・ラウンジに移し、舟山洋平氏(九回生)の司会により、

記念懇親会が開かれた。副実行委員長助川忠弘氏(三回生)による乾杯の後すぐに同年度生や先輩、後輩の輪ができた。教員と卒業後初めて再会し、ともに学生時代を懐かしく振り返る姿もみられた。

式典に続き懇親会にも参加した在学生たちは、卒業生を囲み、現在の仕事の内容を中心に、日頃心掛けていた。卒業生も在学生の質問に答えるだけでなく、今やるべきことや学生生活の大切さについて熱く語っていた。

また、プロのミュージシャンとして活躍している西田遼二氏(十三回生)がその歌声を、三十分間のミニコンサートで披露。盛大な拍手が贈られた。

引き続き部活動や卒業年度別の輪で盛り上がる中、菊地敬氏(五回生)による挨拶で閉会。今回の準備委員を務めた十二名はじめ、参加した卒業生九十五名は、次回開催に向けて協力し合うことを約束していた。



懇親会(九段1号館13階にて)

創部50周年で式典

中国語文研究会

二松學舎大学の中国語文研究会(以下、語文研)が、創部五十周年を迎えた。語文研は在学生十五名が中国語を学ぶクラブで、この五十年の間に同窓生三七九名を輩出してきた。同窓生は二松學舎大学の名誉教授・教授・講師をはじめ、他大学の教授・准教授、高等学校・中学校の教員など、研究・教育関係に携わる者、また実業界にて活躍する者など多岐にわたる。

三月二十四日には、東京都新宿区の日本出版クラブ会館で創部五十周年記念式典を開催。語文研同窓会顧問である名誉教授、現クラブ顧問で在籍する十一名の合計六十四名が出席した。

主催者をはじめとする挨拶のあと、水戸理事長、渡辺学長から寄せられた祝電も披露された。

会場には、東日本大震災の被災地に住む会員や、海外駐在として活躍する会員の姿も見られ、現役員紹介、同窓会会員紹介では参会者がそれぞれの創部五十周年に対する思いを語った。立食形式のパーティーでは、そこで旧知の会員同士の輪が作られ、また新たな会員とのつながりが生まれ、和気藹々とした雰囲気の中、楽しい時が流れた。

青山ゼミ

青山ゼミOBによる『忠友会』は青山先生が二松學舎に在職中から様々な活動を行って来ましたが、近年、活動が停滞し名ばかりの会になっていったというのが実情です。

昨年、松苓会東京支部の主催で『江戸文学教養講座』の講師を青山名誉教授にお願いし、多数の聴講者が得ました。その時、参加者の多くの方から、「来年も是非、青山先生の講演会を開催して欲しい」との要望がありました。そこで、現在まで休止状態の続いていた『忠友会』の組織を整備し、会の活動の一環として青山先生に五回の講演をお願いすることにになりました。既に二回実施しましたが、昔ながらの「青忠節」は健在です。

また、講演会終了後、大学周辺の居酒屋で先生を囲んで、昔話で盛り上がり、親子関係、夫婦間の問題等、それぞれの現在までの体験が語られ学生時代とはまた違った意味で有意義な懇親会となっています。

私達は、『忠友会』スタッフの一員として、講演会、文学散歩等の活動を通して卒業生と母校との絆を深めていきたいと願っています。

『忠友会』代表 井上 和男

平成二十三年度 課外活動助成費を受賞して

文学部

中国文学科三年

スキーサークル主将

福井 一弘

皆様は、アルペンスキーという競技をご存知でしょうか。純粋に速さを競い合うウインタースポーツです。

近年、アルペンスキーをはじめとするスキー愛好者が減少の一途を辿っています。さまざまな理由があると思いますが、とりわけアルペンスキーにはお金がかかります。スキー道具の購入や練習で滑るのにもお金がかかります。

そのため、部員はアルバイトなどして冬の合宿や道具購入のために費用を当て練習を重ねてきました。その結果、三年ほど前から少しずつ成績を残せるようになってきました。年々順位も上げられるようになり、サークルの部員数も増えてきました。

今回、松茶会から助成費を頂くことになり、今まで多くの親や友達に遊びだと思われていたサークルの活動が、スポーツ競技として広く認められていくことができると思います。これからも、頂いた助成費を無駄にすることのないよう、サークル全員が一丸となってさらなる高みを目指していききたいと思います。

文学部

中国文学科四年

鈴木 かな

この度、読売書法展や全書芸展での入賞により、助成費をいただき心より感謝申し上げます。

私は、大学入学時、全国から書道を学びにきた方々との実力の差に呆然としておりました。しかし、書道を学びに大学に入ったからには、二松學舎大学でできる限りのことを学んで卒業しようと心に決め、書道部にも入部し四年間ひたむきに書を学んできました。しかし、教職の授業や講座など、さまざまなことに挑戦すればするほど時間はなくなっていくきます。また、書道展に挑戦するには、紙や墨をはじめ、出品料や表装などお金がかかるため、学生には想像以上に厳しい現実があります。

そんな中、課外活動の助成費の張り紙を拝見し、応募させていたいただきましたのは、ひとえに授業や部活動でご指導下さった先生方や松茶会の皆様のお力添えによるものと感じております。

このご恩を忘れることなく、二松學舎の卒業生、松茶会の一員としての誇りをもって、これからも日々精進していききたいと思います。

文学部

中国文学科三年

新井 啓介

この度、産経国際書会より「特選」を受賞したことで、二松學舎松茶会より課外活動助成費を頂き本当にありがとうございます。

そもそも、私が書道を始めたのは、幼いころ落ち着きがなかった私を、母と今は亡き祖父が心配して書き方教室に通わせたことから始まり、小学校低学年になって筆を持つようになりました。その後、書道の楽しさを知った私は、心の中で本気で書道をやりたいと決意し、中学、高校、そして大学までの十余年を書道と共に歩んでまいりました。

私は、二松學舎に入学してからは書道以外に、中国文学、思想、哲学など幅広く学問に取り組み、教員免許状の取得に向けての勉強もするようになりました。いよいよ就職活動がスタートして、筆を持つ機会が少なくなってしまうました。しかし、将来は書道作家を目指しているの、就職しても作品制作活動も続けたいと考えています。

今回、賞を頂いたことで自分に自信を持つことができました。これを糧に、来年度はさらに上を目指していきたいと思います。大学生活も、残り一年となってしまいました。卒業制作などで忙しい毎日ですが、日々精進していききたいと思ひます。

文学部

中国文学科二年

田嶋 優子

この度は、二松學舎松茶会から助成費を頂くことができ、とても嬉しく思います。

私は、二松學舎大学で書道を学びたいと思い、大学生活の四年間は書道に捧げるつもりで入学し、書道部に入部しました。今回の作品は、私が入学してから初めて書いたもので、練習もたくさんしました。作品を書くにあたり、先生や先輩のご批評、アドバイスをとても重要となり、ご指導いただいた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私だけの力ではなく、私を支えてくださった方々のおかげで賞をいただくことができました。

何度も何度も学校や自宅で書いては先生方に見ていただくといった時期がありました。その結果、このような形で結びついたのだと思います。

努力すれば、何かいいことがある、報われると改めて思いました。そして、私がこうして書に打ち込める環境にいるのは、私の周りの友達や先輩、先生、大学に入るまでの私に書道を教えてくださった先生はもちろん、親、家族のおかげだと感じています。そのことに感謝しながら、自分のやりたいこと、これからも努力してまいりたいと思ひます。



おとなの論語

六月十六日(土)に開催された、本年度、松苓会総会の席上、出席した各支部長に、本部から一冊の雑誌が配布された。支部長を通して、出来るだけ支部会員に、この雑誌に目につける機会を持ってもらいたい、という意図が込められている。雑誌名は「完全保存版人生の指標がみつかるおとなの論語」(徳間書店刊 A四版 全112頁)である。内容は、第一部 論語のことば。第二部 日本人と論語の思想 第三部 孔子、激動の人生を振り返るの特集記事が生まれ、丸ごと一冊論語という体裁であり、様々な角度から論語の魅力を紹介している。

特に、日本の論語教育の特集では、明治十年の創立以来、日本の論語教育を担ってきた二松學舎が取り

上げられ、創立者三島中洲をはじめ、漢学塾二松學舎の卒業生である、嘉納治五郎、夏目漱石から、現在、毎年、一般の人々に開放されて、好評を博している「論語の学校」— RONGOACADEMIA』までが紹介されている。又、論語と算盤を提唱した、第三代二松學舎舎長洪沢栄一。大学の卒業生(五十三回卒)で、「子供論語塾」の主宰者である安岡定子氏のインタビュー記事。本学教員が監修に参画した特集記事等が掲載されている。

「雀も松の枝に来て論語をさえずる」と謳われてきた二松學舎、今後人も人間探求の礎としての論語の精神を発信する拠点として、益々存在価値が高まってゆくと思われる。

寄贈図書紹介

平成二十四年度八月までの寄贈図書は、次のとおりです。

- 美空ひばり一族の不幸① 岸元史明著
- 美空ひばり一族の不幸② 岸元史明著
- 国文学研究所(二〇〇〇円) 岸元史明著
- 紫式部創作の研究一 岸元史明著
- 紫式部の信号① 岸元史明著
- 紫式部日記関係資料解説五 岸元史明著
- 国文学研究所(三〇〇〇円)

135周年記念 「論語カレンダー」の販売について

学校法人二松學舎では、創立135周年を記念して石川忠久顧問・名誉教授監修の「論語カレンダー二〇一三」を作成した。カレンダーには月毎に論語の学而、為政、里仁、子路他から石川先生が選んだ言葉の書き下し分と解釈が掲載されている。売価は1,000円(税込、送料別)で二松學舎サービスが販売している。この他二松學舎サービスでは、記念グッズとしてオリジナルネクタイ(3,500円)、ランチバッグ(700円)、ステンレスタンブラー(1,200円)の販売も予定している。

二松學舎サービス(株)
電話 03-3261-6921

子曰、温故而知新、可以為師矣。

子曰、温故而知新、可以為師矣。これを以て師と為るべし。

2013 2 如月

27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

学校法人 二松學舎

表紙写真

創立130周年を記念し九段坂上交差点前に完成した九段3号館(地上10階)。落ち着いたあるたたずまいは、二松學舎大学の歴史と伝統を、そして、開放的で上昇感のあるデザインはその未来を表現。九段のランドマークと呼ぶにふさわしい、シンボリックな建物です。

編集後記

本号は、松苓会総会を詳しくお伝えした。ページ数増によって、これまで十分に伝えきれなかった点が少しは解消されたと思う。また前号で卒業生の活動として「神奈川県教員の会」を取り上げたが、今回は「語文研」の開設50周年記念式典や青山ゼミの活動を紹介した。同期会、ゼミ会、部活動OB会などの活動も今後取り上げたい。開催の折はご一報願いたい。

活性化委員会から財政基盤の強化について中間答申があった。松苓会の根幹をなす重要な問題であり、取り組みを始めた。

二松學舎 松苓会報 No.47

創刊 昭和62年12月1日
発行 平成24年10月1日
編集 二松學舎松苓会
住所 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
電話 03-3261-7408
振替口座 00180-5-160343
印刷 (株)サンセイ